

「話すこと・聞くこと」における目的・相手意識を高める指導の工夫

松原 央 明

一 はじめに

子供たちの学校生活での音声表現の様子を見てみると、原稿を読み上げたり、一生懸命に練習し覚えた通りに復唱したりするだけということが多い。また、自分本位に話を進めている姿も見られる。音声表現の大事な目的である、「相手に伝える」という意識が薄いように感じられる。また、これまでの自分の「話すこと・聞くこと」の授業を振り返ってみると、最終的に仕上がるスピーチや発表会の形を整えようとするものが多く、相手に効果的に伝えるためにはどうしたらよいのかということに思考を巡らせるような学習が疎かになっていたように思われる。そこで、子供たちがもっと目的や相手意識を明確にもち、自分の伝えたいことを効果的に伝えようとする態度を養い、実生活でも生きて働く力を身に付けていけるようにしたいと考えた。

二 指導の工夫

(1) 録画観察の導入

自身で考えた文章やスピーチは、自分の頭の中で理解が図ら

れており、自分本位になりがちである。子供たちも、友達の発表に対しての批評はできても、自分自身のスピーチや発言を客観的に振り返ることはなかなかできない。そこで、スピーチや話し合いの様子をビデオ録画し、自分たちの話し方や話の内容を客観的に振り返る場面を取り入れるようにする。

(2) 指導過程の見直し

これまでの「話すこと・聞くこと」の指導過程を振り返ってみると、①モデルから記述や発表の仕方を学ぶ↓②記述・練習をする↓③発表する↓④評価・振り返りをする、という形が多かった。しかし、うまく発表ができて子供たちは何がよかったのか、どんなことを次に生かしていけばよいかが明確にならないことが多かった。それは、子供たち自身が、何を学んだのかを捉えることができなかつたためだと考えられる。そこで、①モデルから記述や発表の仕方を学ぶ↓②記述・練習をする↓③話す・課題をもつ↓④練習・再挑戦する↓⑤評価・振り返りをする、という指導過程をとり、伝えるための自分の課題を明らかにすることができるようにする。

(3) 実の場の教材化

話し合う題材や、発表する目的や相手を設定しても、学習を

進めるうちに少しずつその意識が薄れてしまうことがある。そこで、目的意識・相手意識を明確にもつために、学校生活の中の実際の場を教材として取り入れる。

三 授業実践

(1) 実践授業 1

- ① 単元名 資料から分かる、小学生のこと（光村三年下）
指導目標

・相手を見て、大事な部分や言葉を強調したり、間の取り方に注意したりして話すことができる。（話すこと・聞くこと）

・関心のあることから話題を決め、分かったことや考えたことについて、筋道を立てて、話すことができる。（話すこと・聞くこと）

・指示語や接続語の役割を理解し、適切に使うことができる。

③ 全体的計画

第一次（1時間）

・資料から分かったことを説明する活動に興味をもち、学習の見通しをもつ。

第二次（3時間）

・モデルから、スピーチの構成や表現の工夫を見付ける。
・資料から分かることをメモする。
・自分の伝えたいことを決める。

・発表メモを作成する。

第三次（4時間）

・練習、ビデオ撮影を行う。
・録画観察を行い、自分の課題を明らかにする。
・課題を意識して修正、練習をする。

第四次（2時間）

・発表する
・振り返りを行う。

④ 授業の実際（6時間目）

A・S児の発表の録画観察を行い、意見交流を行った。一度、ビデオ視聴し、その後は、必要があればビデオを見直しながら話し合いを行った。

〈A・S児の発表〉

これから全国の小学生の数について発表します。

この資料を見てください。平成二十年度から二十四年度が一番少ないです。だから、小学生はどんどん減っているということが分かります。どの年を見ても、男子が多くて、女子が少ないです。（※1）

だから、私は、これからの赤ちゃんを産む女の人も減って、小学生も減るのではないかと考えました。だから、日本の人口も減っていくのではないかと思います。これで、発表を終わります。

〔話の組み立てに関する話合いの場面〕

C1… 話がつながって、分かりやすかったです。

C2… でも、なんで男子より女子が少ないって言ったの？

(※2)

AS… えっと、子供って女の人から産まれるじゃないですか。だから、どんどん小学生の数が減ってて、したら子供を産む人も少なくなると思ったから…。

C2… そうか。そういうことか。分かりました。

T… C2さんは、どうして今の質問をしたの？

C2… 最初は小学生の人数のことを言っていたのに、急に女の人が減ると言われたので、ちょっと、「えっ？」となったからです。

T… 最初は少し分からなかったということかな？

C2… はい。でも分かりました。

AS… 先生、もう一度ビデオを見せてください。 (※3)

〔録画観察〕

AS… C2さんの言っていたことが分かりました。私がどこからそう思ったかを言っていないので、いきなりで分かりにくかったのかなと思いました。

「今後も小学生の数も減っていく」しかも「男子の数よりも、女子の数が少ない」ということを根拠に、「今後も子供を産むことができる女性の数が減り続けていくのではないか。そして、それが人口の減少につながっていくのではないか」というのがA・S児の考えである。当然、A・S児の頭の中では、筋道が通っている。しかし、初めてその考えを聞いたC2児に

は、それが理解できなかった。(※1)の「どの年も男子が多くて、女子が少ない」という事実が、「今後も人口が減っていく」という考えとすぐにつながらなかったのである。そのことを指摘されたA・S児は、もう一度、録画観察をしないと申し出てきた(※3)。そして、なぜ自分の言いたいことが伝わらなかったのかという課題意識をもって録画観察を行った。ここでは、聞き手の立場となり、自分の発表の伝わりにくさを分析しながら聞くことができ、C2児の意見に共感することができている。つまり、聞き手にとってみると、少し論理の飛躍があったことに気付くことができたのである。

録画観察を取り入れたことで、聞き手は、発表を聞いた際の引っかけりを明確にすることができた。発表者も友達の客観的な指摘を聞くことができた。さらに、その指摘を意識しながら、聞き手として客観的に自分の発表を聞き返すことで、自分の考えを相手に明確に伝えるために、発表の組み立てやつなぎ方について考え直すことができた。

〔視線に関する話合いの場面〕

C1… ずっとメモと黒板を見ていたから、みんなの方を向けばいいと思います。

AS… 自分では、みんなの方を見ていたつもりだったけど、最後の方しが見てなかった(※4)ので、もっとみんなの方を見ようと思いました。

T… どうしてみんなの方をみてたほうがいいの？

C2… みんなの方を見てたほうが分かりやすい。

C3: T: Sさんが、みんなの方を見ていてわかりやすかった。

T: .. 本当に?じゃあ、T・Sさんのビデオも見てみようか。

〈録画観察〉

T: .. どうだった?

C3: .. ずつとじゃないけど、時々、こつちの方を見ていいと思います。

T: .. 確かに、所々で、みんなの方を見てたね。それで、分かりやすかったんだ。じゃあ、どうしてみんなの方を見てた方が、分かりやすいと思うのか、近くの人と相談してみましよう。

〈話し合い〉

C4: .. みんなの方を見てみると、見られている人が「聞かない」と思うから、しつかり聞いてもらえらんだと思います。メモばかり見ていたら、聞いている人も、聞かなくてもいいかなと思います(※5)。

C5: .. 付け足して、みんなの方を見てると、うなずいてくれている人がいて、話しやすい(※6)と思います。

T: .. 反対で、首ひねられたら話しにくくない?

C5: .. それでも、首ひねったら、「この人分かってない」って分かるから、もう一回言え(※7)。

(※4) の発言に見られるように、自分の発表を客観的に見ることで、自分がメモばかりをみて話していることに気付くことができた。事前指導の中でも視線に関する指導は行っており、

子供たちも分かっているはずではあるが、実際に発表する際には、その意識が薄れてしまう。A・S児は、録画観察を行うことで、視線に関する自分の課題を自覚することができた。

また、A・S児とT・S児、二人の録画観察を行うことで、(※5・6・7)のように、相手に視線を送ることの効果について考えることができた。二人の映像を比較することを通し、形式的に「相手を見て話す」のではなく、自分の話したことが相手に伝わっているのかを判断するためや、聞き手の注意を喚起するといった、その行為の意味を実感として捉えることができたのである。こういった視線に関する指導事項は、相手意識の高まりには欠かせないものであり、子供たちの「自分の考えを聞き手にしつかりと伝えよう」という態度の育成につながっていくと考える。

(2) 実践授業2

① 単元名 学級討論会をしよう(光村六年上)

② 指導目標

・ 互いの意見をはつきりさせながら、疑問点を整理して自分の意見を言ったり、質問をしたりして、討論することができる。

・ 討論会の話題に沿って、話し手の意図を捉えながら聞き、自分の意見と比べるなどして考えをまとめることができる。

・ 討論会における言葉の使い方などについて関心をもつことが出来る。

③ 全体計画

第一次（3時間）

- ・ 討論会について知り、学習の見通しをもつ。
- ・ 討論会のモデル（CD）を聞いて、討論会の進め方や上手な意見の述べ方を知る。

- ・ CDを聞き、討論を聞くときのポイントを確認する。
- ・ 討論会の話題を決める。（A・Bグループに分かれる）

第二次（2時間）

- ・ 討論会の準備をする。

第三次（2時間）

- ・ 討論会をする。（ビデオ撮影）
- ・ 録画観察を行い、よかった点や改善点について話し合う。

第四次（2時間）

- ・ 新たな話題に対する準備をする。
- ・ 改善点を意識して討論会を行う。
- ・ 振り返りを行う。

④ 授業の実際

討論会を行うにあたり、討論会は対立点のある話題について話し合い、考えを深めることを目的とすることや、それぞれの立場による目的の確認を行った。特に、討論会を行うと攻撃的な議論になったり、勝ち負けを意識したりすることが多いため、感情を害するような言動を慎み、相手の気持ちを落ち着いて把握する態度についての指導も行い、学習を進めた。

〈討論テーマ〉

小学生は、自転車通学をしてもよいか

〈肯定派の主張〉

自転車通学をしてもよい。

- ・ 登下校の時刻がバスによって制限されるバス通学の子供も、みんなと同じ活動ができるようになる。
- ・ 体力がつく。

〈否定派の主張〉

自転車通学をしてはいけない。

- ・ 危険である。
- ・ 学校に駐輪スペースがない。

録画観察をするにあたり、効果的であったと思われる場面や発言、改善すればよいと思われる場面や発言があった場合に挙手をして、ビデオを止めて話し合うことを確認した。

子供たちが挙手をした場面の中から、「肯定グループ」のR・N児の発言について話し合った場面を取り上げる。

〈R・N児の発言に関する話し合いの場面〉

C1.. R・Nさんの「雪のないところを乗ってこればいい」という意見は、ちよつと…つて思いました。まず、雪が降っていたら自転車に乗れないし、ちよつと強引かなと思います。(※8)

C2.. 付け足して、自分たちの意見を通すぞつて感じがしました。(※9)

C3.. うん。なんかちよつと、ムキになっている感じがした。(※10)

T … 自分の意見を強引に通そうとしたらだめなの？
C 2 … はい。なんか「えっ、それは違う」って思うし、ムキになつて言われると、こっつちもちよつとムツとします。(※11)

〈中略〉

T … ということは、自分たちの提案を諦めればいいってことかな？

C 4 … 違います。肯定グループはどうして自転車通学がいいと言っているかというと、自由な時間に来て、みんな仕事ができるからじゃないですか。だから、どうしても自転車通学をしなければいけないわけではなくて、みんな一緒に仕事ができればいいんだと思うんです(※12)。だから、雪が積もった日は、自転車通学ができないって認めても大丈夫なんじゃないかと思います。

C 5 … そうそう。だから、「そうですね」って、一旦認めて、自転車で来れる日は来て、みんなと仕事をするって言えばよかつたんじゃない。

C 6 … 私だったら、「確かに雪の日は自転車に乗ってくることはできません。だからこそ、自転車で来れる日は早く来て、来れない日の分まで、みんなと一緒に活動したいと思います。」みたいな感じで言います。そしたら、余計に早く来てみんなと働きたいということが伝わると思います。

T … なるほど。一旦認めて、自転車通学したいその理由を強調するんだね。R・Nさん、話をきいてどう？

RN … はい。自分の意見を無理に言おうとムキにならないで、ちゃんと認めたほうがいいんだなと思いました。認めておいたほうが、聞いている人も嫌な気持ちにならないし。(※13)

N・R児の発言が、自分たちの提案を通そうとするあまり、自分本位な態度や筋の通らない発言になっていることを指摘し(※8・9・10)、その上で、そういう態度や発言のもたらす聞き手の反応(※11)を考えることができた。また、N・R児の立場になり、どう発言すればよかつたかを考えることで、自転車通学という提案自体よりも、それを支える理由が大事であり、そこに焦点を当てることで肯定側の意図を伝えることができるということを確認することができた(※12)。さらに、自分本位に話を進めるだけではなく、相手の指摘を受け入れる態度も必要であることも確認することができた(※13)。

(3) 実践授業3

① 単元名 引き出したい内容を聞き出そう

↳ 広報集会委員会になりきってインタビューをしよう

(五年自作単元)

② 指導目標

・ 目的に沿った内容を引き出すために、インタビューの展開を予想したり、適切な質問事項を考えたりすることができる。

・ 話し手の意図を捉えながら、適切に返答し、次の質問に

つなげることができる。

③ 全体計画

第一次（1時間）

- ・ オリエンテーションを行い、（広報集会委員会として、集会の感想を聞くインタビューをするという想定で学習を進めるといふ）学習の見通しをもつ。

第二次（2時間）

- ・ 目的分析と相手分析を行う。

課外

- ・ 児童集会における広報集会委員会のインタビューを聞く。

第三次（1時間）

- ・ 広報集会委員会のインタビューを評価する。
- ④ 授業の実際

ここで扱う言語活動はインタビューであるが、学習指導要領に例示されている情報を収集するためのインタビューとは違う。集会後に感想を聞くものであり、集会の参加者に聞かせるためのインタビューである。ここで引き出したい内容は、その集会で感じたことや学んだことなどであり、啓蒙活動的な要素ももっている。つまり、集会の目当てと深くかかわってくるものである。今回の集会の目当ては、集会の中の委員会発表の内容に関わる「挨拶のよさを知り、自分の中の委員振り返って、これからの挨拶に生かそう」というものと、児童集会そのものの目当てである「みんなで盛り上げ、楽しい集会にする」であった。これらの目当てや集会の内容を踏ま

えて、インタビューをして引き出した内容は何かということについて話し合った。子供たちから出された意見は次のようなものであった。

〈委員会発表に関する内容〉

- ・ これからは、元気で気持ちのよい挨拶をしていきたい。
- ・ 自分から進んで挨拶をしていきたいと思った。
- ・ 相手の目を見て挨拶をしたいと思います。
- ・ 来校者にもしっかりと挨拶をしたいと思います。

〈学年発表に関する内容〉

- ・ 二年生の合奏がきれいだった。
- ・ 二年生の演奏が上手だった。

〈その他に関する内容〉

- ・ ゲームで、みんなと楽しむことができた。



図1 R・T児のインタビュー構想

これらの話合いを基に、インタビューの質問と流れを考えた。図1は、R・T児が考えたインタビューの質問と流れである。引き出したい内容を話し合ったこともあり、目当てに関する内容を想定することができていた。また、話の内容の切り替え

方も考えており、話がそれでも、自分の引き出した内容に
なげることができるようになっている。

このように、実の場を教材化することで、目的が明確になり、
その目的を達成するために思考を巡らせることができたと考え
る。

四 成果と課題

(1) 成果

・録画観察することは、聞き手の立場になることであり、自
分の話し方や話した内容が聞き手にとってどうであるか
という客観的な視点で自分の姿を振り返ることができた。そ
のことが、「相手に伝えるためにはどうしたらよいのだろ
う」という課題意識につながり、相手を意識しようとする
態度につながっていった。

・録画観察は、繰り返しして観ることができ、話し方や発表の
構成、内容などの効果、聞き手の精神状態を詳細に吟味す
ることができる。そうやって吟味する経験を積むことで、
相手に伝えるための効果的な発表を作り上げようとする意
識が高まった。

・録画観察する場面は、実際に行った生の表現活動であり、
そこから生まれた課題は子供たちにとって切実感のあるも
のになる。そのため、一生懸命に思考を巡らせ、課題を解
決しようとする姿を引き出すことができた。

・指導過程に「試す」ことを取り入れることにより、自分自
身の課題を明確にもつことができ、思考を巡らせて課題を

(2)

課題

解決しようとする意欲につながった。

・実の場を教材として取り上げることにより、相手や目的意
識をより明確に意識することができた。

・録画観察を行うことで、より効果的な話し方や話の構成な
どに気付くことができるが、そこでの学びを話し合い等の音
声表現で、瞬時に発揮するところまではできなかった。音
声表現における瞬発力を鍛える手立てを考えなければなら
ない。

・録画観察を行うことを、聞くグループの指導には生かせな
かった。もつと、聞き手にスポットを当てた授業も必要で
ある。

・録画観察や「試す」時間を大切に学習を進めたが、その分、
時間がかかってしまう。

(立山町立立山小学校 教諭)